



南海トラフ巨大地震に備える！ ～絆でつくる安全・安心なまちづくり～



静岡県掛川市南郷地区まちづくり協議会
会長 中村 隆哉

1 はじめに

南郷地区まちづくり協議会は、平成 25 年に静岡県掛川市が超少子高齢化と人口減少社会を見据えて制定した自治基本条例に基づく「協働によるまちづくり」を地域で進めるための推進母体として、住民・自治会・企業・組織・団体など地域総体で構成される地域コミュニティの新たな仕組みで、市内には 31 の協議会があります。

南郷地区は、東海道新幹線掛川駅の直ぐ南東に位置し、域内には東名高速道路掛川 I C があり、9 つの自治会の集合体で、2,909 世帯 6,352 人が住んでいます。

地区の特性としては、住宅密集地の大半が水田を埋め立てた宅地造成地のため軟弱地盤で被われており、近い将来発生が危惧される南海トラフの地震が発生した場合は、震度 6 強の激しい揺れが襲い家屋の倒壊など甚大な被害が出るのが静岡県の第四次地震被害想定で示されています。

このため、地区としての最大の課題は、大地震に対する減災・防災対策にあります。

防災力は、地域力そのものですので、強い絆が求められます。そのため当地区は、地域の人の顔の見える関係を醸成する取組として、毎回約 300 人が参加する年 2 回の春と秋の歩け歩け運動、自治区対抗ユニカール大会、秋季祭典、防災訓練、青少年健全育成一斉清掃、新年の集

いなどを実施しています。

南郷地区のビジョンは「住んでいることに幸せを感じる地区」ですが、こうした地域課題を踏まえ、出来ることを出来ることから合言葉に、まちづくり協議会の防犯防災部会は「安全・安心で住みよいまち南郷」を部会ビジョンに掲げ、様々な減災・防災対策を実施してきました。その概要についてご紹介させていただきます。

2 これまでの取組

(1) 南郷地区女性自主防災会の組織化

広域避難所運営における女性の視点の必要性から、平成 25 年に広域避難所の運営支援に特化した女性だけの自主防災会を立ち上げ、各区からの推薦による現在 34 人が活動しています。

(2) 命の手帳作成・配付

高齢者の自らの体のカルテや、大地震等の発災時にとるべき行動、緊急連絡先、避難所等を



女性防災応急手当訓練（三角巾を使わない応急手当）



広域避難所での HUG 訓練



命の手帳を
敬老会にて配付

命の手帳作成（78 歳以上に配付）

記載した健康保険証が入るサイズのポケット版を作成、毎年敬老該当者に敬老会時に配付しています。

(3) 地震防災マニュアルの全戸配付

大地震発生直後の分刻みの取るべき行動や、発災前の減災対策（備える）、発災後の共助支援（助け合い）をB2判で作成し、全世帯に配付し、トイレのドアなど日常見やすい場所に掲示することを依頼しました。



地震防災マニュアル

(4) ペットの動向避難訓練と

動向避難ガイドブックの作成配付

①行政からの支援を受けない、自治区とNPOとの企画・運営による広域避難所としての県内初めての訓練を実施しました。

②訓練の結果、ペットを飼わない人への啓発と、飼い主の同行避難の行動手順や、地区防災会が日常考えるべき「ペット防災」などを掲載したペット同行避難ガイドブックを地区内のペットの飼い主全世帯に配付しました。

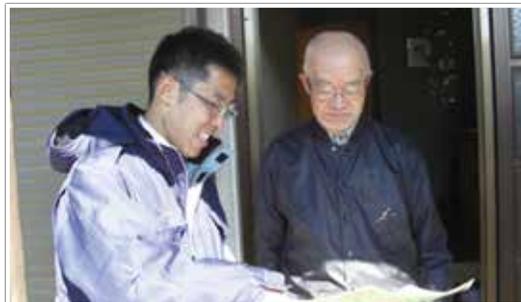


広域避難所にて「ペット同行避難訓練」

(5) 家屋の耐震化に向けた戸別訪問

静岡県第四度地震被害想定では、地区内の1,754棟のうち651棟が倒壊することが示されています。このため、昭和56年以前に建築された

85棟を協議会の役員が訪問し、家具の固定や家屋の耐震診断と耐震化工事の施工を勧め、18軒が耐震化工事を施工しました。



住宅耐震化の戸別訪問

(6) 感震ブレーカーの設置促進

地区内の戸建て住宅1,264世帯に、通電火災を防ぐための感震ブレーカーの設置喚起をし、高齢者のために市への助成金申請処理を、まちづくり協議が代行して実施した結果、平成29年度～31年度の3年間で計202個を設置しました。

(7) 地区防災計画の策定

南郷地区（広域）としての地区防災計画を、掛川市のモデル地区として作成。その前提として、各自主防災会の防災計画も同時進行で作成しました。

(8) 防災台帳の作成

これまで、各自治区が作成所有していた世帯台帳を防災の視点で見直し、家屋の建築年度や、地域特性、避難所・避難場所、ペットの有無などの項目を新たに加えた防災台帳を作成し自治区で常備しました。

3 これからの取組

防災は、自分の命は自分で守ることが基本ですが、個人がすべきこと、地域がすべきこと、行政がすべきことがあります。今、地域コミュニティに求められるもの、それは、住民一人ひとりの防災に対する意識の高揚だと思います。やらなければならないという意識がなければ、できないからであります。防災・減災対策は、ここまでやれば良いということはありません。意識して、出来ることを出来ることからやるのが大切だと思います。